

第2回トランス脂肪酸に係る情報の収集・提供に関する
関係省庁等担当課長会議 議事要旨

- 1 日 時：平成22年1月26日（火） 10:30～12:00
- 2 場 所：消費者庁会議室1
- 3 出席者：食品安全委員会事務局 酒井情報・緊急対応時対応課長
厚生労働省 木村生活習慣病対策室長、河野栄養・食育指導官
農林水産省 高橋食品産業振興課長
消費者庁 内田長官、田中次長、原審議官、黒田政策課長、
相本食品表示課長、平中食品表示課長補佐、
芳賀衛生調査官
- 4 ヒアリング対象者：女子栄養大学 川端教授
日本マーガリン工業会 植田専務理事、
株式会社A D E K A 板垣食品開発研究所長

（議事要旨）

- 女子栄養大学川端教授、日本マーガリン工業会よりヒアリングを行った。
- ヒアリングの後、質疑応答を含めた意見交換を行った。

○ヒアリング

（川端教授）

- ・ 関東及び沖縄に在住する若年者を対象に、連続6日間の食事調査を行い、その中の1日分の食事を再現し、総脂質及びトランス脂肪酸分析を行った。
- ・ トランス脂肪酸摂取量は脂質摂取量に強い正の相関が見られるが、はずれ値を示したものからは、トランス脂肪酸摂取量に脂質摂取量の依存はみられなかった。
- ・ 平均値的には総脂質に対するトランス脂肪酸摂取量の影響は低いと考えられる。
- ・ ただし1つの食品偏らず、主食・主菜・副菜というバランスの取れた食事を行うことが望ましい。

（植田専務理事）

- ・ 当工業会として、従来よりトランス脂肪酸の研究調査を行っている。
- ・ 広報として、トランス脂肪酸に関するパンフレットを作成し、HP等にも掲載している。

- ・ トランス脂肪酸の含有量を減らすために、年々硬化油を減らす努力をしているところ。
- ・ 買い上げ調査を行い、家庭用マーガリン類等のトランス脂肪酸量を調べてたところ、100g 中の含有量も減少していた。
- ・ 今後もトランス脂肪酸の含有量の低減を行うとともに、バランスの取れた食事の広報にも努めていきたい。

○意見交換

(消費者庁)

- ・ 同様の食べ物でも、トランス脂肪酸の含有量にばらつきがあるのはなぜか。
- ・ 若者へのバランスの取れた食事摂取を進めるための提言はないか。

(川端教授)

- ・ 形を崩さないような食べ物によく入っているという認識。例えば、長時間形を保てるケーキは多いが、形が崩れやすいケーキには少ないなど。
- ・ 現在の若者は欠食が多く、摂食の時間も適当である。できるだけ、家庭で料理を作り、主食・主菜・副菜等のバランスを心がけた食からスタートして欲しい。

(板垣食品開発研究所長)

- ・ 同じ食品でも、使っている原材料が異なるため、含有量も必然と変わってくる。

(食品安全委員会事務局)

- ・ トランス脂肪酸の含有量が減っているとなっているが、飽和脂肪酸が増えていることの実関係について。
- ・ 飽和脂肪酸が減っていない状況で、トランス脂肪酸の摂取量を1%以下にするということで、飽和脂肪酸が増えてしまい、国民のリスクを高めることにはならないか。イギリスは国民の飽和脂肪酸摂取量目標を2%においている。

(板垣食品開発研究所長)

- ・ 飽和脂肪酸とトランス酸の合計値は大きく変化していない。トランス脂肪酸が減った分の飽和脂肪酸の影響については、今後議論する必要がある。

(川端教授)

- ・ トランス脂肪酸を減らそうとする食生活自体は、飽和脂肪酸を減らすことになると考える。

(厚生労働省)

- ・ 説明のあった当該調査結果のみで、日本人の摂取実態が明らかになり、リスク評価までできると考えているのか。

(植田専務理事)

- ・ これまでのいろいろな論文や食品安全委員会等の資料等も参照している。

(川端教授)

- ・ 同じような食事をしていても、選択する食品によって、トランス脂肪酸の摂取量が変わる可能性がある。消費者が選択しやすいように、含有量表示することも考えるべき。

○連絡事項

(食品安全委員会事務局)

- ・ 平成 22 年度の食品安全委員会が自ら食品健康評価を行う案件の検討・選定について、トランス脂肪酸に関する食品健康影響評価を行うことが企画専門調査会です承され、食品安全委員会に諮られることになった。